

平成22年8月1日

第77号

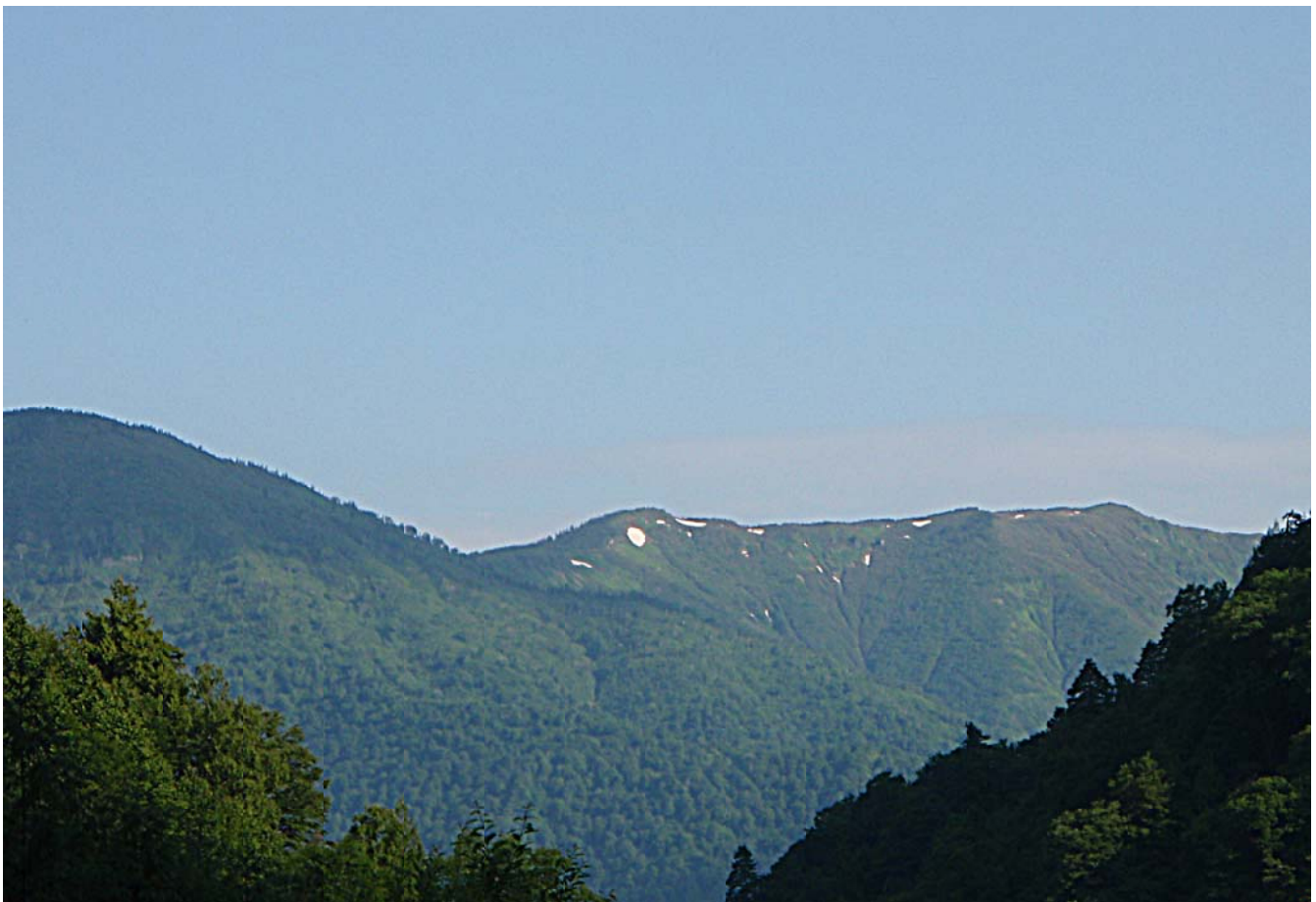
関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



大規模林道飯豊・檜枝岐線から会津駒ヶ岳を望む（福島県檜枝岐村）
（撮影者：会津森林管理署 南会津支署 虻川 穂孝）

国民参加の森林づくり

計画部 指導普及課

私と国有林 「子供達の世代へ森を引き継ぐ」

森林インストラクター東京会 事務局長 大熊 輝興 氏

国民参加の森林づくり

計画部指導普及課

関東森林管理局では、森林づくり活動や森林環境教育のフィールドを求め、団体・学校、社会貢献活動の一環として森林整備のフィールドを求め、企業などの要請に応えるため、国民参加の森林づくりを積極的に推進しています。

今回ご紹介する国民参加の森林づくり活動は、国有林を管理する国（森林管理署等）と活動実施者（企業、学校、NPO団体等）が協定を締結し、ボランティア活動や森林環境教育などを実施するものです。活動に当たっては、国から森林の保全・森林整備活動に対するアドバイス等を行うほか、森林・林業に関する知識と経験を備えたボランティア団体やNPO団体の協力を得ることも可能です。

ふれあいの森

「ふれあいの森」とは、森林づくりに参加したい、森林とふれあいたい、森林の豊かさを理解したいという団体やNPO等の方々の声に応え、国有林のフィールドを選定し提供する制度で、現在、関東森林管理局管内では、16箇所685ヶ所設定しています。



甲府商工会議所植樹祭での引継式

今年4月、山梨県甲府市に設定した「ふれあいの森（甲府商工会議所の森）」は、甲府商工会議所の創立130周年記念事業の一環として、財団法人オイスカ山梨県支部とともに森林づくり活動を実施するために国と協定を締結しました。

この森は、平成19年から今年3月まで、ANAインターコンチネンタルホテル東京が森林整備活動を行ってききましたが、甲府商工会議所が活動を引き継ぐこととなり、3月28日に引継式を兼ねて植樹祭を行い、ケヤキ、ヤマザクラなど450本の植栽を行いました。

今後より良い森林づくりのための活動が期待されます。

遊々の森

「遊々の森」とは、国有林の豊かな森林環境を活かし、子どもたちの多様な体験活動を支援し、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的とした制度で、現在、関東森林管理局管内では、28箇所1,963ヶ所設定しています。

最近の取り組みでは、今年6月に魚沼市と中越森林管理署が新潟県と福島県境にそびえる浅草岳周辺の国有林に「浅草山麓遊々の森」を設定しました。

この森（面積約230ヶ所）は、グリーンツーリズムによる地域振興を進めている魚沼市からの要望により



浅草山麓遊々の森締結式

実現したもので、その効果が期待されます。

モデルプロジェクトの森

「モデルプロジェクトの森」とは、国有林をフィールドとして、地域住民やNPO等の関係者が合意形成を図りながら森林づくりを協働・連携して行う制度です。

現在、関東森林管理局管内には、群馬県みなかみ町で地域住民、自然保護団体などとともに、生物多様性の復元に取り組む「赤谷プロジェクト」や小笠原村父島でのアカガシラカラスバト等が生息できる森林の回復再生を目指す「ハトの森林（もり）」及びヒメツバキをはじめとした小笠原固有の森林に修復することを目指す「村民の森」、西島において固有の植生・陸産貝類・鳥類等が生息できる生態系への修復を目指す「西島の固有森林生態系の修復と保全の森」の4箇所を設定しています。

このほかにも「木の文化を支える森」や「社会貢献の森」「多様な活動の森」等も設定しています。

学校や地域の各種団体、ボランティア等で継続した森林整備活動を行い、自然体験などの森林環境教育を実施したい等の希望がありましたら、最寄の森林管理署等にお問い合わせください。

小笠原「モデルプロジェクトの森」



ハトの森林(もり)



西島の固有森林生態系の修復と保全の森

名称	ハトの森林(もり)	西島の固有森林生態系の修復と保全の森	村民の森
相手方	小笠原自然観察指導員連絡会	小笠原クラブ	小笠原野生生物研究会
目的	アカシガラハト等の固有動植物が生息・生育できる森林生態系の修復・保全のための外来植物の駆除や固有種の調査等	固有動植物の保全と固有森林生態系の修復と保全のための外来植物の駆除、固有種の調査等	固有動植物の保全と固有森林生態系の修復と保全のための外来植物の駆除、固有種の調査等
場所	旭山国有林 18林班ほか	西島国有林 11林班	旭山国有林 14林班ほか
面積	154.24ha	43.42ha	13.66ha
公示日	H22年2月26日	H22年2月26日	H22年2月26日
締結日	H22年3月30日	H22年3月30日	H22年3月30日



村民の森

7月30日付け

森林管理署

▽福島森林管理署長

中山 浩次

(林野庁治山課水源地治山対策室長)

8月1日付け

関東森林管理局

▽高尾森林センター所長

田中 昌之

(塩那森林管理署長)

森林管理署

▽塩那森林管理署長

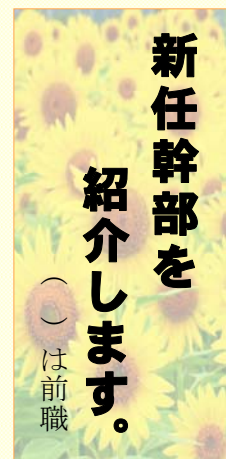
松井 正

(森林技術総合研修所 首席教務指導官)

▽伊豆森林管理署長

植松 保夫

(東北森林管理局 庄内森林管理署長)



赤谷の森から

赤谷の森自然散策を開催

広く一般の方々に赤谷の自然環境について知っていただくために、5月30日(日)、「赤谷の森自然散策」を開催し、県内から14名が参加しました。

当日は、時折小雨が舞うあいにくの天候となりましたが、赤谷プロジェクト地域協議会の長浜陽介氏の案内で、望遠鏡を覗いてのオニグルミの雌花の観察、炭焼き窯の跡を観ながら昔の人々の生活に思いを馳せ、ク



オニグルミの雌花はどんな形？



クマの爪痕にびっくり



何が飛んでいる？

マの爪痕に触れたりしながら小出侯林道沿いを散策しました。また、姿を確認することが難しい、タゴガエルのグウツ、グウツという鳴き声を聞くことができ、参加者からは歓声が上がっていました。

地域の高校生への森林環境教育

6月から7月にかけて、沼田市にある利根実業高等学校の農業系1年生80名を対象に、赤谷プロジェクトの活動を紹介する講座を4回に分けて行いました。

講座では、初めに赤谷プロジェクトの概要やほ乳類の特徴などを説明

した後、屋外で双眼鏡や望遠鏡を用いて観察を行い、なかなか見ることができないクマタカなどをみつけようと、皆さん熱心にレンズを覗いていました。

この講座は各回ともに短時間での実施となりましたが、これを機会に生徒の皆さんが、森林・林業や環境問題への関心を高めてもらえればと期待しています。

植生管理ワーキンググループ

現地検討会

6月20日(日)、21日(月)の両日、赤谷の森において、座長である東京農工大学名誉教授の亀山章先生をはじめとする植生管理ワーキンググループのメンバー19名が参加して、試験地設定のための現地検討会を行いました。



資料と現地を照らし合わせて検討中

現在、赤谷の森では、人工林を自然林に復元することを目的として、カラマツとスギの人工林を対象に試験地を設定しており、継続的にモニタリング調査を行っています。今回新たに設定する試験地の目的は、近隣の自然林からの距離などが、人工林が自然林として復元するに当たりどのような影響を与えるかを検証することです。これまでにない新しい取り組みとなります。当日は、林内に入って現況を確認するとともに、メンバー間で意見交換を行い、試験地として設定する森林を決定しました。今後は、これらの試験地について、具体的にどのよう試験を行うか詳細な計画を立てる予定です。



自然観察会

森林インストラクター東京会（以下略称F I T）は、全国レクリエーション協会実施の資格試験に合格した東京地区中心の公的資格会員258名の任意団体で、「森と人をつなぐ案内人」として、自然観察・環境教育支援・森林関連講座・森林再生保全活動を実行しています。

関東森林管理局と委託契約により、「森林ふれあい推進事業」を実施し、高尾山の国有林を中心に「親子観察会」を春夏秋冬の年4回実施するなど年間10回以上活動しています。

私と国有林

子供達の世代へ森を引き継ぐ

森林インストラクター東京会 事務局長 大熊 輝興

今日まで高尾山での「森林ふれあい推進事業」を含めて13年、50回以上、延べ参加親子1,500名以上を高尾山の自然へいざなうて来ました。

東京都の森林は、東京都全体の36割、国有林は都森林全体の10割ではあります。我々F I T会員の“まほろば”である高尾山を通じて養ったノウハウを駆使して、東京都の管轄「鳩ノ巣」フィールドの森林自然の復活・維持活動や、聖パウロ学園学校林の整備を通じての自然環境教育プログラム支援等々、東京の森を



早速自然発見



自然と遊ぼう

通じた森林環境保全・維持活動を活発に展開しています。

様々な活動を通じ、私並びにF I Tと国有林に付いての思いは、今まさに環境保全・炭酸ガス削減・生態系保全等の自然環境への関心が高まる中、美しく貴重な自然環境の維持の為に、何よりもこれからの世代を担う子供達に自然を知り、自然に親しむカルチャーを取り戻していく必要を痛感しています。

折角の準備にも関わらず自然を見つめたがらない子供達がイベント等の進行につれて関心を示し、最後は目を輝かせて次回の参加を約束された時、自然の大きな力のおかげを感じ、次の企画への活力が湧き出る事を実感します。

森林インストラクター受験者は制度運営平成10年ごろに比して受験者が漸減してきています。その中で東京地区の受験者・合格者の人員は増加が顕著なのは、自然が少なく、都市生活に疲れた都民の癒しとして、森林活動が見直されている証左に思えます。

東京から、東京の国有林からこれからの地球を支える子供たちを中心に、自然環境保全発信を強化して行きたいものと願い、欧州や豪州に見劣りする日本のネイチュアリストの社会的認知度改善に向け引き続き実績を積んで行きたいと思えます。

私は東京生まれ東京育ちの60代後半の人間ですが、その私たちが子供時代に経験できた体験さえ今の子供が全く知らない、更には養育している両親もその思いがおぼろげになって来ている事は、我々森林自然に対処する人間にとって恐るべきピンチと感ずります。



自然の恵みの勉強

森づくりの最前線

下越森林管理署 佐和田森林事務所 森林官 山田 隆也

私の勤務する佐和田森林事務所は新潟県沖に位置する佐渡島の佐渡市にあり、関東森林管理局管内で唯一離島にある森林事務所です。

佐渡島はカタカナの『工』を少し傾けたような形をしており、北部の標高1,000㍍級の山々が並び大佐渡山脈と南部の比較的緩やかな小佐渡山脈、それらに挟まれたように広く平坦で稲作が盛んな国仲平野が広がっています。海岸線延長は、約280キロメートルあり、広さも約855平方キロメートルと沖縄本島に次ぐ大きさです。

また、観光地では、佐渡金山や特別天然記念物のトキがいる島として有名です。



佐渡島北端・大野亀で見られるトビシマカンゾウの群生地



国有林に飛来したトキ

当事務所は、小佐渡山脈の中央に位置する国有林約1,000㍍と島内に点在する9箇所の官行造林地約790㍍を管理しています。

佐渡島の国有林は、トキの保護繁殖のために昭和37年度から昭和45年度にかけて買い入れたものです。そのため、当事務所管内には人工林が少なく、大半が広葉樹の天然林となっており、全域が鳥獣保護区に指定されています。

佐渡島では、トキの野生復帰を目指して平成20年の秋から、2年間で29羽のトキを2回に分け放鳥しました。残念ながらこれまでトキの自然繁殖は成功していませんが、今期は飼育ケージから自然に飛び立たせるソフトリリース方式により群れが形成され、ペアができ、営巣と抱卵まで確認できました。一次放鳥では、トキの雌全てが島を飛び出し本州へ渡ったことから考えると着実な進歩だと思われます。

現在、「平成27年頃に小佐渡東部地域に60羽のトキの定着」を目標に、環境省を中心とした関係機関や地域住民の方々が丸となって生育環境・社会環境整備の活動を行っています。

下越森林管理署では、その活動の一環としてトキ営巣木等保全整備事業を行っています。トキは主にマツの木に巣作りをし雛を育てていたというデータから、営巣木となりうる木（アカマツ・コナラ等）を国有林や隣接する官行造林地で選定し保全しています。

また、佐渡島ではマツクイムシやナラ枯れの被害が多く発生しており、候補木の保全のために必要に応じて薬剤の樹幹注入や枯損木伐倒を行い、かつてのようにトキが国有林に飛来してくれることを期待しています。

今年で2年目の佐渡島生活、最初の年はバタバタと過ぎていきましたが、ようやく慣れてきた気がします。森林官として、地元関係機関との打合せや会議等で様々な人と会う機会が多く、専門外の事を聞かれる事もありますが、それでも少しは落ち着いてこなせるようになってきました。職員一人で大変な面もありますが、「色々学び、知識も技術も積み重ねて頑張らな！」と思っています。



アカマツの幹に薬剤を注入

管内の百名山「会津駒ヶ岳」



会津駒ヶ岳山頂

会津駒ヶ岳（標高2,133㍎）は、福島県檜枝岐村の尾瀬国立公園の北側に位置し、日本百名山に選ばれています。

登山口は滝沢、キリンテ、七入、御池の4ヶ所ありますが、最短で登れる滝沢登山口が一般的で山頂まで約4時間、途中には清水が湧き出す水場があり絶好の休憩地点となっています。登山シーズンは、残雪が残る5月から紅葉が終わり初冠雪のある10月初めまでとなります。

山頂付近の地形はなだらかで、中門岳にかけて広がる湿原には木道が整備され、雪解け水が多いの池塘を潤し、春にはチングルマ、ハクサンコザクラ、ワタスゲ等多くの高山植物が咲き誇り大勢の登山客で賑わいます。

また、春遅くまで雪が残ることから、山スキーの入山者も多く訪れます。

山頂からは男体山、日光白根山、燧ヶ岳、至仏山、越後三山、平ヶ岳等々の眺望が楽しめ、条件がよければ富士山も見ることができます。



駒の小屋前の雪渓で遊ぶ登山者

この一帯は原生的な天然林が残る国有林であり、野生の動物相が豊かで生態系を指標するツキノワグマやクマタカなどの生息も多く確認されていることから、山頂付近は奥会津森林生態系保護地域の保存地区（コアゾーン）に区分し、厳正な維持を図る地域に指定しています。

南会津支署では、これからも会津駒ヶ岳の自然豊かな森林の保全に努め、末永く登山者の皆様に楽しんでいただけるよう取り組んで参ります。



滝沢登山口

（会津森林管理署南会津支署広報広聴連絡官）

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159

申込締切 平成22年8月26日（木）必着
参加費 1,000円
お申し込み・お問い合わせ先
高尾森林センター
〒193-0844 八王子市高尾町2-438-1
電話番号 (042) 663-6000
<http://www.rinya.naff.go.jp/kanto/takao/>

実施日 平成22年9月10日（金）
場所 高尾森林センター
募集人員 20名（応募者多数の場合抽選）
申込方法 往復葉書の往信面に、イベント名「森の恵みでクラフト体験」、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名（ふりがな）④年令⑤電話番号、返信面にお申込者の宛名をご記入のうえ、当センター「クラフト体験」係まで応募ください。



つるかごを作って見ませんか

森の恵みでクラフト体験

参加者募集